

## ヨハネスブルグサミット（持続可能な開発に関する世界首脳会議）

～経緯、準備状況、意義～

平成14年4月19日  
環境省

## 1. ヨハネスブルグサミットに至る経緯

## 1972年（昭和47年）「国連人間環境会議」（ストックホルム会議）

「かけがえのない地球」をスローガンに開催され、「人間環境宣言」を採択。

- ・ 先進工業国においては経済成長から環境保全への転換
- ・ 途上国においては開発の推進と援助の増強が重要であると宣言。

↓ 20年

## 1992年（平成4年）「国連環境開発会議」（地球サミット）

世界各国から100以上の首脳を含む約180か国の代表、国際機関、企業、NGOなど、2万人以上が参加して、リオ・デ・ジャネイロ（ブラジル）で開催。

- ・ 「環境と開発に関するリオ宣言」の採択
- ・ 「アジェンダ21」（持続可能な開発のための具体的行動計画）の採択
- ・ 「森林原則声明」の採択
- ・ 気候変動枠組条約、生物多様性条約の署名の開始

**環境と開発を統合し、持続可能な開発を進めることが人類の安全で繁栄する未来への道であることを確認。**

↓

地球サミットを契機に地球環境問題が国際社会の最重要課題の一つであるとの認識が世界的に高まり、

- ・ 多くの環境条約・議定書等が成立し、世界各国、国際機関等による取組が進展

特に、この10年間の最大の成果の一つである京都議定書について、ヨハネスブルグサミットの開催を踏まえ、2002年に発効させることが多くの国により支持されている。

- ・ 地球環境に関する観測データの蓄積とそのメカニズムの解明、環境保全型企業活動の浸透などが急速に進展

↓

一方で、いまだ多くの課題が存在

- ・ 人口の増大、資源の大量消費、貧困の拡大等による地球環境の悪化
- ・ グローバル化の進展に伴う貧富の格差の拡大
- ・ 環境条約や環境関係機関同士の連携不足

↓ 10年

## 2002年（平成14年）ヨハネスブルグサミット

アジェンダ21の実施状況や新たに生じた課題等を検証、今後の取組の強化を図る。

## 2. ヨハネスブルグサミットの準備状況

ヨハネスブルグサミットでは、アジェンダ 21 の実施促進のための取組に関する合意文書（**世界実施文書**）及び政治声明（**政治文書**）が採択されるほか、各国や各主体による行動の約束を記載した文書（**約束文書**）も会議の成果物とされる予定。（別添 1 参照）

ヨハネスブルグサミットの準備は、すでに 2001 年（平成 13 年）から開始されている。アジア太平洋地域では、同年 11 月 27 日～29 日にプノンペン（カンボジア）で準備会合が開催され、省エネ・循環型社会の実現、衛星モニタリング等の科学的基盤整備、持続可能な農業、持続可能な森林経営（違法伐採対策を含む）への取組等の本地域の重点事項と取組方針を合意文書（**地域綱領**）として取りまとめた。（別添 2 参照）

2002 年（平成 14 年）からは世界レベルでの準備プロセスが始まり、1 月 28 日～2 月 8 日に開催された第 2 回準備会合においては、サミットで取り上げるべき主要テーマと、各分野毎に、持続可能な開発を実現するために国際社会がとるべき行動について、各国政府及び世界の各界関係者（マルチステークホルダー）によって議論され、その結果が今後の議論の土台となる議長ペーパーとして提示された。また、3 月 25 日～4 月 5 日に開催された第 3 回準備会合においては、議長ペーパーに対する各国コメントを盛り込んだ編集ペーパーが作成され、それについて各国が意見を述べるに留まった。このため、5 月初旬にサリム議長が改訂議長ペーパーを作成し各国に提示して、それを基に第 4 回準備会合（5 月 27 日～6 月 7 日）で議論されることになった。また、約束文書に盛り込むべきプログラムの基準が公表された。なお、第 4 回準備会合では政治文書の（案）の作成が行われる予定。（別添 2 参照）

## 3. ヨハネスブルグサミットの意義

1992 年の地球サミット以降も世界の環境は悪化の一途を辿っており、また、先進国と途上国の貧富の差は著しく拡大している。ヨハネスブルグサミットは、これらの問題の解決を目指して、**21 世紀の地球社会の将来像について世界の首脳が率直に話し合う**、本年、最大規模、最重要の国際会議。（南アフリカ政府は、65,000 人の参加を見込んでいる。）

海外に多くを依存し、地球環境に一定の負荷をかけている日本にとっても、激甚な公害を克服した経験と知恵を活かして、**持続可能な開発の実現に向けてどのような具体的な貢献ができるかが問われる重要な会議。**

また、サミットにおいては、政府間交渉のほかに、様々なマルチステークホルダーによる多彩なサイドイベントが開催され、サミット後も継続的に発展する持続可能な開発に向けた世界レベルでの交流が生まれると考えられることから、我が国からも、産業界、学会、自治体、NGO 等の関係者の幅広い参加が期待される。

## ヨハネスブルグサミットで予定されている成果物

### 1. 政治文書 ( Political document )

持続可能な開発に向けた各国首脳の決意を示す文書。

### 2. 世界実施文書 ( Global implementation document )

アジェンダ21の実施を促進するための取組についての合意文書。

(参考) 世界実施文書のたたき台としてのサミット準備会合議長編集ペーパーに含まれている事項

- 1 貧困撲滅
- 2 持続可能な生産・消費パターン
- 3 経済・社会開発の基礎となる天然資源の保全と管理
- 4 グローバル化する世界における持続可能な開発
- 5 健康と持続可能な開発
- 6 小島嶼開発途上国の持続可能な開発
- 7 アフリカのための持続可能な開発イニシアティブ
- 8 実施手段  
資金、貿易、技術移転、科学と教育、  
キャパシティ・ビルディング、意思決定のための情報
- 9 ガバナンス

### 3. 約束文書 ( Record of Commitments/Partnership )

各国、各界関係主体による具体的なイニシアティブの提案・表明を記載した文書

- ・ 活動内容及び活動範囲が国際的 ( 全地球、地域、準地域レベル )
- ・ 途上国のアジェンダ21の実施と持続可能な開発活動の支援
- ・ ヨハネスブルグサミットの関連で特別に計画された新規のもの

# ヨハネスブルグ・サミット (持続可能な開発に関する世界首脳会議) ～準備プロセス～

2001年4月30日～5月2日  
第1回準備会合(ニューヨーク)

・サミットに向けた準備プロセスを決定

11月9日～14日(ドーハ) 第4回WTO閣僚会議

2001年11月27日～29日  
アジア太平洋地域準備会合

カンボジア・  
ブノンペン

合意文書を取り  
まとめ(地域綱領)

・他の地域の準備会合(欧州、アフリカ、ラ米及びカリブ海、南西アジア)  
・国際機関、主要グループ

2002年1月28日～2月8日  
第2回準備会合(ニューヨーク)

・アジェンダ21実施促進のための重要事項を検討  
・今後の議論の土台となる議長ペーパーを提示

2月13日～2月15日(コロンビア、カルタヘナ)  
国連環境計画(UNEP)第3回グローバル閣僚級環境フォーラム

3月4日～3月15日(ニューヨーク)  
国連森林フォーラム(UNFF)第2回実質会合

3月18日～3月22日(メキシコ、モンテレー)  
開発のための資金に関するハイレベル協議

3月25日～4月5日  
第3回準備会合(ニューヨーク)

・「世界実施文書」の草案を準備

4月24日～4月26日  
OECD持続可能な開発グローバルフォーラム(パリ)

5月15日  
OECD閣僚理事会(パリ)

5月27日～6月7日  
(5月24日～26日 非公式協議)  
第4回準備会合(パリ)

6月5日～7日 閣僚級会合  
・「世界実施文書」の最終調整  
・「政治文書」の草案を準備

6月10日～6月13日  
世界食糧サミット5年後会合(ローマ)

6月26日～6月28日  
G8サミット(カナナスキス)

2002年8月26日～9月4日  
ヨハネスブルグ・サミット(南アフリカ)

9月2日～4日 首脳級会合

世界規模の準備プロセス